



# 一生懸命だよ



## 今こそ助け合う時です 3月11、12日大震災・津波・原子力発電所事故

東北地方・栄村をはじめ県北部の被災されたすべての皆様にお見舞い申し上げます。お亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈り申し上げます。栄村で被災されている皆様、東日本の各地で避難所におられる皆様、一瞬のうちに津波にさらわれた地域・生活・家族・友人・知人……そしていまだ多くの行方不明の方々がおられます。又、福島の原子力発電所の事故は天災ともその後の対応は「人災」ともいわれる状況になっています。次代を担う子ども達の為に「脱原発」を今こそ声を大にして訴える時ではないかと思えます。

県議は3月17・18日と早速4tトラック4台の物資と共に東北の福島県にとびました。震災翌日から集まったフィリピン医療ボランティアの皆様からの大量のマスク・歯ブラシをはじめ毛布・衣料、義援金や急を要する粉ミルク・下着・女性用品・紙オムツ等を早く届けたいと思っている矢先、島田代表の関係する「信州上田真田救援隊」が被災地へいち早く飛ぶことを聞き、「信州佐久平救援隊」として合流させていただきました。

地元の青年僧侶の方々の方々のリードで福島県内の4市に必要な物を直接届けることができました。最後の田村市は第1原発の近くで4万人の都市に8000人以上の避難された方がいて、暖をとるものでも食料でも何でも置いてほしいとの事でした。皆様の善意ありがとうございました。



3月17日夜 福島県須賀川市体育館前で—  
必要な物資を必要な所に1週間以内に直接届ける



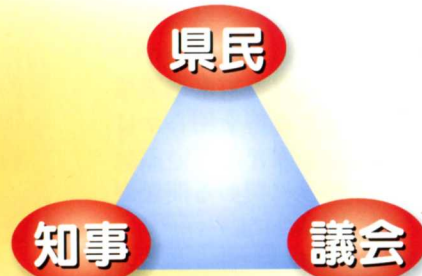
3月18日 福島県田村市役所—市長・副市長より  
第1原発の事故による避難状況を聞く



栄村役場にて—副村長より被災状況・避難状況を  
伺い復興に向けて意見交換をする

# 信州をさきがける 熱い思いで トライアルの原点を忘れず 頑張ります！

こどもたちの「声」  
お母さん達の「思い」  
お父さん達の「汗」  
歴史と文化を担う  
高齢者の「心」を  
県政に反映します。



三角形(トライアングル)の頂点の「県民」を底辺の「知事」と「議会」で支え、試行錯誤(トライアル)しながら信州人の心と生活と自然を守る為にトライする。

県民目線・現場主義  
**一生懸命な人**



地域の高校を守った県議

週5日制の見直し・中学少人数学級推進

水と緑を守る活動から生まれた県議

信州の自然と環境を守る

子育てや雇用の相談に昼夜飛び回る県議

次代を担う人々の生活の保障を

ドクターヘリ導入に尽力した県議

佐久地域の医療の充実に全力を

地域福祉に取り組む県議

地域の人々の出会い・絆を結ぶ施策を

財政健全化に取り組んできた県議

次代につけを残さない

鳥獣害対策、県産材活用を訴える県議

TPPIに負けず、農業・林業を守る

# トライアル信州 県政報告

2011年(H23) 第18号

- 発行・編集/長野県議会トライアル信州
- 住所/長野市南長野字幅下692-2 議会棟2F  
TEL.FAX 026-235-7515  
E-mail:info@trial-shinshu.jp  
ホームページ:http://www.trial-shinshu.jp
- 発行責任者/島田 基正



島田 基正

永井 一雄

今井 正子

小林 康一郎

## 県民のいのちと暮らしを守るため 今年も全力でトライ

今年は統一地方選の年。県議選も4月に行われる。

トライアル信州では「県民のいのちと暮らしを守る」という使命のもと、県民世論とかい離れた議会多数派勢力と一線を画し、県民益にかなった県政実現のため、この4年間全力で活動を続けてきた。これからもわれわれの「トライ」に皆さまの力強いご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 県民世論無視の浅川ダム建設継続

阿部知事は、昨年8月の知事選では浅川ダム建設の是非について明言を避け、「自分自身納得のいく結論を得るため」知事就任後の約2ヵ月間、庁内における論点再確認作業を進めてきた。そして11月定例会開会直後の11月29日、論点再確認の最終報告を受け、その日のうちに浅川ダム建設継続を表明した。

知事選後の県民世論調査では、浅川ダムに対し、工事を中止もしくは一時中断し再検証を望む回答が6割以上あった。阿部知事は「できる限りダムによらない治水を」と言いながら、浅川の治水のあり方を根本から問うこともなく、庁内の作業チームでこれまでの経過をただ確認したのみ。そこから得た結論に、県民は果たして納得するのだろうか。

### 住民への説明責任はどう果たす

### 事業仕分け予算に異論続出

11月定例会に提出された事業仕分け関連予算に対し、自民党、創志会、共産党から異論が続出。総務委員会では2会派からそれぞれ補正予算の減額を求める修正案が提出されたが、採決の結果、原案可決となった。反対した議員たちは「信州型と言いながら県外のシンクタンクの力を借りるのはおかしい」などと難クセとも受け取れる理由を述べていたが、わが会派では来年度の本格実施に向け専門家から手法を学ぶべきと、事業仕分け予算に賛成した。

片山総務大臣(元鳥取県知事)も述べているが、お役所は自らが作った制度や仕組みを見直すことは不得手であり、外部の目を入れなければ行政は変わっていかない。事業仕分けは県政変革のための格好の機会と捉えるべきだ。

### 異例の知事陳謝・発言取り消し

11月定例会で、県中期総合計画の見直しに関する一般質問に阿部知事が「今般の選挙で腰原副知事が当選されれば、現行計画そのままを継続ということだったと思います」と答弁。これに関し、翌日の一般質問で知事与党の改革・緑新に所属する議員が「憶測発言で不適切。陳謝し撤回すべき」と発言。知事は即座に謝罪し、発言を取り消すと答えた。

このやりとりは議事進行上極めて異例だ。本来発言の取り消しについては、議長に申し出、議会運営委員会が必要ありとなれば議会で決定するのが通例。議員が本会議で陳謝を求めるのもおかしいし、すぐに応じるのも変。知事はどこを向いて仕事をしているのか疑いたくなる。

### 「満蒙開拓平和記念館」建設支援を県に要請

